

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 —)

事業所番号	0671200301		
法人名	有限会社ウェルネスさがえ		
事業所名	グループホームあしたば		
所在地	寒河江市大字西根字石川西294-3		
自己評価作成日	平成22年 9月 15日	開設年月日	平成18年 3月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・文化祭・イベント等地域活動への参加。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査日の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 22年 10月 13日	評価結果決定日	平成 22年 11月 4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

我が家でもあるホームは、朝の掃除とラジオ体操の利用者同士身体を動かすことから一日のスタートとなっています。話し相手や、食事の手伝い・見守り等のボランティアとの関わりを大切に育み、利用者と職員は何時も「笑顔」で毎日を楽しく穏やかに暮らせるよう取り組まれている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員一人一人の思いをたくした理念を作り上げ、介護目標も掲げて実践に向けて取り組んでいる。	事業所独自の理念や介護目標等を極め細やかに掲げている。利用者の笑顔や楽しみを職員の英気に繋げ、穏やかなゆったりとした暮らしを実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加したり、社会資源を活用しながら日常の交流を図っている(花咲かフェアへの参加、文化祭への展示、ボランティアの受け入れ、祭りみこし見学、鮎の寄贈等)。	毎年地域の文化祭には生け花・貼り絵等を出展し交流を図っている。ボランティアの受け入れや、「子供たる神輿」時は互いに歌の交換をしたり鮎釣り大会や花咲かフェア等の行事に参加し地域との繋がりに努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの養成講座の講師として、認知症の理解を深めたり、市民講座に参加したりし、地域の人々に理解や支援の方法を広めたりしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度より、民生委員の方にも出席してもらい、ホームの理解・意見交換を通してサービス向上に活かしている。また、会議は、双方向的な会議になるよう配慮し、意見を言えるような会議となるよう努めている。	2ヶ月毎の定例運営推進会議となっている。利用者・家族代表・町内会長・市の担当者の他新たに民生委員の参加を得、活動状況等の報告や質疑応答を含む意見交換等を行い、情報交換の場となるようサービスの向上に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	提出物等がある場合は、郵送ではなく、足を運ぶよう心がけている。市へ足を運びながら、相談、情報交換等密に連絡をとっている。	市町村とは利用者の暮らし方や状況を伝え意見をもらい連携を図っている。また、認知症サポーター養成講座等の講師依頼もあり協働関係を築きながら地域に向けた取り組みをしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	運営方針に身体拘束についての方針を掲げ、身体拘束をしないケアをしている。また、玄関のドアに鈴をつけるなどの創意と工夫により取り組んでいる。	職員は身体拘束の弊害を認識している。玄関は開放し見守りを重視、安全を確保した支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修会に参加し、その伝達研修を実施し、学ぶ機会を得ている。また、日頃から虐待のない介護に注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係機関主催の研修会に参加し、学んだ事を全職員に報告し、必要性に応じて活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な時間をとり説明するよう実践している。また、質問等を受けながら理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、近況報告をするとともに、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに心がけている。また、ホール内に意見箱を設け、意見等を表せるよう心がけている。	意見箱の設置や家族等の来所、面会時等には思いや要望等を気軽に話せるよう信頼関係を深め、精神面でも支え合える体制作りに努めている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の定期的な職員会議で、職員の意見や提案を討議する機会を設け反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者自ら職員と共に現場で勤務し、各人が向上心を持って働けるよう研修への参加を促したり、職場環境の整備に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加への希望を聞きながら研修を受ける機会の確保を図り、また、伝達研修等を実施しレベルの向上を図っている。また、経験の浅い職員は、新人研修を受けたり、マンツーマンにて働きながらのトレーニングを実践している。	外部研修は職員の希望を取り入れながら参加している。日頃の関わりの中で疑問点をその都度トレーニングし「知識と対応」を内部研修に繋げ、スキルアップを図りながら質の向上に力を注いでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	交換実習への参加や他施設のイベントへの参加等を通して同業者との交流を図り、質の向上に向けて取り組んでいる。	県・市グループホーム連絡協議会の研修や、近隣同業者との訪問交流で情報交換を行い、良い所を取り入れ互いに評価し合う等サービスの質の向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人から直接話を聴く機会を設け、信頼関係を築くよう努力している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時より、時間を取り、話を聴き、信頼関係を築くよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況に応じて、グループホームに限らず他のサービス利用も含めた対応を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事、出来ないことを見極め、役割を持ってもらいながら、共に過ごし支えあう関係づくりに努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に、情報の共有に努め、喜怒哀楽を共にし、家族・ホーム一体となって本人を支えていく関係を築くよう努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人の訪問を受けたり、昔から利用している床屋・美容院・食料品店を利用し、関係が途切れないよう努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	台所仕事・洗濯物干し・洗濯物たたみ・掃除等、利用者同士が支えあいながら一緒に行ってもらい、支えあうような支援につとめている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移った場合には、関係者に本人の状況やケアについて情報を伝え、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、本人や家族から暮らし方の希望や意向を聞き、ケアプランに取り入れながら、希望に添えるよう支援している。	日々の関わりの中で言葉や表情の変化に気づき、ケアプランに取り入れ利用者笑顔で過ごせるよう希望に添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の相談時より、生活歴、暮らし方、環境等の情報を得たり、本人との会話の中で情報を得よう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態に合わせ、残存機能を助長しながら、現状の総合的な把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや家族の要望を聞き、カンファレンスにて話し合い、職員全員で情報を共有しながら介護計画の作成に努め、同意を得ながら実践している。	家族等の思いや意見等を聞きながら、毎月の常会・検討会等で職員全員情報を共有し一人ひとりの介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の介護記録ノートへの記入で情報を共有し、定期的カンファレンスで意見を出し合いながら介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの店や花屋に行ったり、文化センターを利用したりし、地域資源を把握しながら、これまでのように好きなことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	受診は、入居前からのかかりつけ医に継続しての受診となっている。また、ホームでの状況を情報提供しながら連携を図り、適切な医療が受けられるよう支援している。	馴染みのかかりつけ医や歯科・眼科等の専門医には家族等と生活の様子や付き添い等の相談をしながら受診の支援をしている。受診結果は互いに連絡を取り合い職員等の情報共有も出来ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護師を配置し、日常的な健康管理や医療活用の支援を行い、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の介護サマリー等で情報を提供して情報の共有をしている。また、入院時には、面会により回復状況を把握したり、早期退院にむけての相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した時や状態が変化した時などの事について事業所として出来ることを説明し話し合いながら対応している。	契約時に事業所としての方針の説明をしている。利用者の状態変化に応じその都度家族や関係者等と連携を図り、情報を共有し確認しながら支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生訓練を実施したり、救急蘇生訓練の研修会に参加したりし、また、応急手当や初期対応のマニュアルを作成し学習している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員・地域住民の立会いにて夜間想定 of 非難訓練を実施。また、日中を想定した避難訓練も実施しており、定期的に避難訓練を実施している。	昼夜を想定した訓練を2月と7月に実施している。消防署や近隣住民への参加呼びかけを行い、昨年の課題であった地域等との連携体制の充実に努めている。災害に向け、缶詰・乾パン等の食料や飲料水等の備えもあり、今後も地区消防団等地域住民との継続した訓練の実施を検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員で、言葉の内容や声の大きさに注意を払いながら対応している。また、排泄時などは、雑談しながら対応したりし、対応を工夫している。	一人ひとりに添った声がけ等に配慮し、日頃の気づき等を申し送りノート等で確認、互いに意識を持ち統一した関わりになるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に一人ひとりに働きかけながら、本人の思いや希望を表せるよう説明し自己決定に結びつけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの心身状況に合わせ、それぞれのペースを大切に、本人の希望を優先に支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望がある人は希望の理美容院にいたり、本人同行で洋服や化粧品を購入したりしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に利用者の希望を取り入れたり、毎日の献立をみんなが見れるようホールに掲示したりし、楽しい食事になるようにしている。また、出前や外食なども取り入れている。また、出来る人には、準備や後片付けなども職員と一緒にしてもらいながら力を活かしている。	毎日利用者の好みや希望を取り入れ、乳製品・野菜等の摂取や行事食等に留意しながら職員が献立を立てている。生活の関係作りのひとつとして利用者の出来得ることを引き出し、職員と利用者とは同じテーブルで一緒に会話をしながらゆっくり食事を摂っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の状態や希望に合わせ、刻みにしたりお粥にしたりしている。また、摂取量を記録して摂取量の把握をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き・義歯の洗浄を実施している。また、昼食後は、自力で歯磨きを行ったあとに仕上げの介助を行っている。また、個々の状況に合わせ、口腔洗浄液なども使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを記録し、申し送り等で共有しながら実践している。また、雑談等ながらさりげないトイレ誘導をしたりして配慮している。	利用者のリズムを理解し、さりげない促し等を行いながら気持ちよくトイレでの排泄が出来るよう、見守り等に留意し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便となるよう心がけ、1日1回乳製品を摂取したり、野菜を多く取り入れたりし献立に配慮している。また、毎日運動も実施して自然排便になるよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一番風呂に入りたい人や午前中に入りたい人等、できるだけ希望に合わせて柔軟に対応している。また、入浴を拒む人は、話題を変えながら対応し工夫している。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせた柔軟な対応をしている。湯温の調整や羞恥心等に配慮し身体状況を観察しながらゆったりと寛いで入浴出来るよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの心身状況に合わせて運動・散歩・足浴等を実施し、安眠できるように支援している。また、昼食後は、自室で休憩したり、和室で休憩したりその人に合わせた対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれのカルテに薬の処方箋を保管し、常時確認できるようにしている。また、薬の変更時などは、記録や申し送り等で連携を図り、症状の変化の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や心身の状態に合わせ、生け花、貼り絵、計算ドリル、台所仕事などを実施している。また、気分転換にドライブや外食なども行っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と利用者が一緒に買い物に行ったり、希望を聞きながら散歩に行ったり、外食やドライブ等で普段行けないような所へも出かけている。また、家族の協力で本人の友人とも一緒に外出したりしている。	利用者の希望に合わせた散歩や買い物等に出かけている。今年は猛暑続きで外出は控えめであったが外食や季節を楽しむドライブ等で出来るだけ外に出る機会を作っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	こづかいを所持して使用している利用者もあり、利用者の希望を取り入れている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時にはいつでも電話できるように支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の生けた季節の花や、季節に合わせて利用者で作成した貼り絵を飾ったりしている。また、ホール内のソファーには、それぞれ座る場所がほぼ決まっており、落ち着いて過ごしている。	台所を中心にフローアが一体化し広く高窓を利用した採光で明るい造りとなっている。食事の匂い等で五感を刺激しながら、それぞれ思い々の場所でゆつくと寛いでいる。共用空間には利用者作品の生け花や貼り絵等を飾り、家庭的な温かい和みが漂っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや畳などもあり、利用者同士がソファで談話したり、畳で横になったり、それぞれ好きな場所で過ごせるような環境づくりをしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の椅子を持ち込んだり、位牌を置いたり、写真を飾ったり、本人の希望を聴きながら居心地良く暮らせるよう支援している。	馴染みの物を活かしながらこれまでの生活と変わりのない環境作りに配慮し、一人ひとりにとって「ほっとする安らげる場所」として気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの心身状態に合わせたベッド周辺の環境づくりをし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。また、安全のために手摺りを設置したり、トイレ・風呂場に場所を表示し、自立して暮らせるよう工夫している。		